

座標: 北緯35度4分15.4秒 東経136度41分32.8秒

ウィキペディア

# 六華苑

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

**六華苑**（ろっかえん）は三重県桑名市にある旧諸戸清六（2代目）邸（東諸戸邸）の総称。国の重要文化財・名勝。

## 目次

**概要**

**洋館**

**和館**

**庭園**

主庭園

内庭

**その他の建造物**

**文化財指定等**

**なぜこの地にコンドルの作品があるのか？**

**所在地**

アクセス

**施設利用**

**参考文献**

**関連項目**

**外部リンク**

<div><div><div><span></span><div><div><span><span></span></span></div><div><div><b>六華苑</b></div></div></div></div><div>旧諸戸清六邸（東諸戸邸）</div></div></div>	
	
六華苑・庭からの風景	
<b>所在地</b>	三重県桑名市桑名663-5
<b>位置</b>	<span><span><span><span>北緯35度4分15.4秒</span> <span>東経136度41分32.8秒</span></span></span></span>
<b>類型</b>	実業家邸宅
<b>形式・構造</b>	（洋館） <span>ジヨサイア・コンドル設計</span> 、木造2階建 （和館）伊藤末次郎建築、木造平屋
<b>敷地面積</b>	18,000m <sup>2</sup>
<b>建築年</b>	明治44年（1911年）着工 大正2年（1913年）竣工
<b>文化財</b>	国の <u>重要文化財</u> ・ <u>名勝</u>

## 概要

実業家二代目諸戸清六の新居として明治44年（1911年）着工し、大正2年（1913年）に竣工した邸宅は、洋館とそれに連なる和館、複数の蔵などの建造物と池泉回遊式日本庭園を持ち、総面積は18,000平方メートル余に及ぶ。

諸戸家が桑名市内に別邸を建ててそちらに生活の場所を移したことから、戦中戦後には諸戸家の関連会社の事務所として使用されたが、平成2年（1990年）建物を桑名市に寄贈。翌年には敷地も市に売却され、市指定文化財となった。修復整備工事の後、平成5年（1993年）から一般に公開されている。平成9年（1997年）に国の重要文化財に指定され、平成13年（2001年）庭園が国の名勝に指定された。

## 洋館

鹿鳴館の設計で知られるイギリス人建築家ジョサイア・コンドルによる木造2階建てでヴィクトリア朝住宅の様式を基調とした洋館である。外観の特徴として東北の隅に立つ4階建の塔屋や、庭園に面して多角形に張り出した1階のベランダと2階のサンルームがあげられる。コンドルが描いた当初の図面では塔屋は3階建だったが、「揖斐川を見渡せるように」との清六の意向で4階建てに変更された。また、内部のデザインは1階は洋風ながら、2階は洋間に和風の襖が設けられるなど和洋折衷で、押入れの中に収納棚を作り付けるなどの工夫がなされていた。現在、塔屋3・4階は非公開。



六華苑・洋館

## 和館



六華苑・和館

諸戸家お抱え大工であった伊藤末次郎が棟梁を務めた和館は木造平屋造り（一部2階建て）で、洋館の竣工に先立つ大正元年1912年に上棟された。当時、洋館と和館を併設する場合、別棟とすることが多かったが、諸戸邸では洋館より広い和館が壁を接して直に接続されており、普段の生活は和館が中心だったという。

周囲を巡るように板廊下が配置され、和館北側の内庭に面する板廊下と各部屋の間には主人と家族、客人が使うための畳廊下が設けられている。

## 庭園

---

### 主庭園

建物の南側に位置する、芝生の広場と池を中心とした日本庭園で、溪流や滝、枯れ流れなどが巧みに配置されている。建設当時、庭園東側の水源付近にはコンドルの設計で中央に噴水を配したバラの洋式円形花壇があったが、大正末期から昭和初期の改築の際に撤去された。また当初、池の水は揖斐川と繋がっており、川の干満の変化に合わせて池の水位が変わる「汐入り庭園」となっていた。

### 内庭

当初設けられていた茶室や待合に合わせて露地風の庭園だったが、昭和13年（1938年）の改修で茶室は撤去され、離れ屋（当時は仏間として使用していた）が作られた。この改修は諸戸家と交流のあった松尾流の十世・松尾宗吾が監修したもので、主庭園も含めて手が入れている。

## その他の建造物

---

- 長屋門 - 現在は六華苑入口
- 旧高須御殿 - 高須藩の御殿の一部を移築したものと伝わる。（高須陣屋の項も参照のこと。）
- 玉舟稻荷社
- 一番蔵
- 番蔵棟

## 文化財指定等

---

- 平成3年（1991年） - 桑名市指定文化財となる。
- 平成8年（1996年） - 建造物が三重県指定文化財となる。
- 平成9年（1997年） - 建造物が「旧諸戸家住宅 2棟」の名称で国の重要文化財に指定。
- 平成13年（2001年） - 庭園部分が国の名勝に指定。



和館内部、次の間から一和館の畳廊下と板縁の間を見る



和館（左）と洋館（右）。2棟は直接接続している。

## なぜこの地にコンドルの作品があるのか？

---

コンドルが設計した現存建造物の大半は東京に集中しており、地方には桑名市のみに現存する。初代清六が、西南戦争で兵糧を送る仕事を通じて、元勲大隈重信など政府要人の知遇を得たことや、三菱財閥の創始者岩崎家との交流があったことが、三菱の顧問を務めていたコンドルが（当時僅か23歳の）二代目清六の設計依頼を受けた背景にあると考えられている。

## 所在地

---

- 桑名市大字桑名字鷹場663番の5

## アクセス

- 東名阪自動車道 - 桑名ICから15分
- JR東海関西本線・近鉄名古屋線 - 桑名駅から
  - 徒歩約25分
  - K-バス - 「六華苑」下車すぐ
  - 路線バス市内 A循環・B循環 - 「田町」下車、揖斐川堤防沿いを北へ徒歩10分

## 施設利用

---

### 開苑時間

午前9時から午後5時（入苑は午後4時まで）

### 入苑料

- 一般（高校生以上） - 310円（260円）
- 中学生 - 100円（50円）

括弧内は団体料金。小学生以下は無料だが付き添いを要する。

### 歴史の案内人

桑名や六華苑の歴史に通じた案内人による解説サービスあり、無料。

### 休業日

- 毎週月曜日
- 国民の祝日に関する法律に規定する休日の翌日
- 12月29日から翌年1月3日まで。

有料で、和室や番蔵棟・会議室・旧高須御殿・芝生広場・離れ屋を借りることもできる。

## 参考文献

---

- 『桑名市指定文化財旧諸戸清六邸(六華苑)整備工事報告書』（桑名市・桑名市教育委員会 1995年）
- 『六華苑 The Memory of Josiah Conder』（桑名市教育委員会 2001年）
- 『六華苑・西諸戸邸 保存・管理・活用基本計画策定報告書』（文化財保存委員会編、桑名市教育委員会 2002年）
- 路上観察学会『路上観察華の東海道五十三次』文藝春秋

## 関連項目

---

- 諸戸氏庭園 - 六華苑に隣接する初代清六の邸宅（西諸戸邸）。
- 諸戸清太 - 実業家で初代清六の二男、二代目の実兄。
- スパイ・ゾルゲ - 2003年の映画、ロケで使用。
- 人間失格 - 2010年の映画、ロケで使用。
- ヘリテージング100選 - 六華苑が入選。
- 不夜城（原題）-2016年の韓国ドラマ、ロケで使用。
- お嬢さん（原題：AGASSIアガシ 英題：HANDMAIDEN）-2016年の映画、ロケで使用。
- いだてん〜東京オリムピック噺〜 - 三島弥彦の実家としてロケで使用。

## 外部リンク

---

- 桑名市観光ガイド・六華苑詳細 (<http://kanko.city.kuwana.mie.jp/machi/rokkaen/>) - 桑名市 (<http://kanko.city.kuwana.mie.jp/>)

---

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=六華苑&oldid=73830836>」から取得

---

**最終更新** 2019年8月13日 (火) 03:46（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。